

H25シカ年度隣接地区エゾシカ捕獲結果

I. 捕獲状況

1. エゾシカ捕獲事業（契約数2件）

実施機関 北海道森林管理局

捕獲方法 囲いワナによる生体捕獲

捕獲場所 ウトロキャンプ場（位置図1参照）

捕獲期間 前期：平成26年1月上旬～3月14日

後期：4月中旬～5月30日

捕獲回数 11回（1月4回・2月4回・3月2回・5月1回）

捕獲頭数 41頭（オス3頭・メス14頭・0歳22頭）

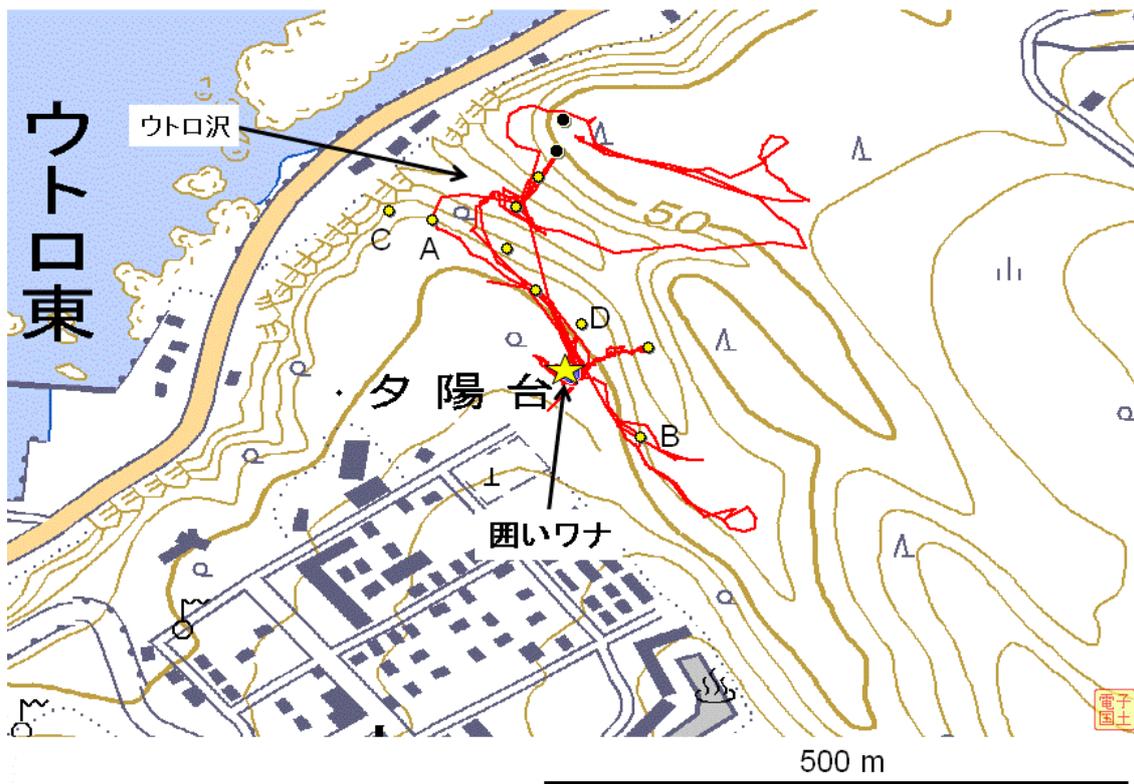
規制等 国指定鳥獣保護区（普通）

誘引状況 前期は既存の市街地を囲むように設置された防鹿柵の外側に位置するウトロ沢の両岸からの誘引を実施した。また、後期はウトロ市街内に入り込んだエゾシカを捕獲の対象とした。（位置図2参照）

位置図1



位置図 2



※赤線については餌まきを行った主要な軌跡で原則として明瞭なシカ道に沿っている。
また、黄色の丸印は重点的に餌を撒いた箇所である。

II. 捕獲事業で出てきた課題等について

1. 周辺のエゾシカの生息状況について

捕獲期間中は全期間を通じて、囲いワナの捕獲ゲート入口までの誘引はできていた。

前期の捕獲が終了した3月下旬から4月中旬には、ウトロ沢河口斜面に約30～50頭のエゾシカが複数回視認された。

4月以降のウトロ市街地では、キャンプ場周辺、ウトロ支所裏、自然教育研究所横等でそれぞれ10頭程度の群れが確認された。

しかし、後期の捕獲ではヒグマの出没のため、適期を逸した。

2. 囲いワナの設置場所や形状について

既存の防鹿柵（電気柵）に併設する形で囲いワナをカーブ形状に設置したため、閉塞感が生じて警戒心を抱かせる構造となった可能性があった。

また、使用した化粧合板の光沢面に鹿の影が映り込む等により警戒させた可能性もあった。

3. エゾシカ捕獲個体について

今回の捕獲では警戒心の強い個体（特にメス成獣）が多数残り、捕獲ゲート入口付近まで来ても囲い部内に誘引することが困難だった。また、捕獲が困難だったメス成獣については防鹿柵（電気柵）を学習しておりこの対策も課題の一つと考えられる。



○2月上旬の捕獲ゲート前の誘引状況



○囲い部の形状と化粧コンパネの映り込



○既存の防鹿柵（電気柵）と囲いワナ



○誘引したシカ道と対岸の崖の状況

III. 効果的な捕獲方法に向けて

1. 囲いワナの設置場所と形状について

キャンプ場での捕獲については、防鹿柵（電気柵）の外側に囲い部と捕獲用ゲートを増設するとともに、警戒心の原因となったと考えられる化粧合板については光沢のない部材に変更する等の改良を行う。

2. エゾシカ捕獲個体について

囲いワナの増設を10月頃までに完了させ、囲いワナにエゾシカを慣れさせる。また、比較的警戒心の弱そうな個体を誘引のための囿個体とすることを検討する。

3. ウトロ市街地でのエゾシカ捕獲について

今年度もキャンプ場での捕獲時期については12月下旬から3月中旬を基本するが、4月から5月についてはヒグマの活動状況に大きく左右されることからキャンプ場では行わず、防鹿柵より離れた箇所での小規模囲いワナによる捕獲を検討する。